

平成21年 5月12日現在

研究種目：若手研究 (B)  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18730168  
 研究課題名 (和文) GATT/WTO体制における環境及び労働の問題に関する研究  
 研究課題名 (英文) A Study on the Issues of the Environment and Labor in the GATT/WTO Disciplines  
 研究代表者  
 神事 直人 (JINJI NAOTO)  
 岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准教授  
 研究者番号：60345452

## 研究成果の概要：

国際貿易における争点である「貿易と環境」と「貿易と労働」について経済学的な理論分析を中心に研究を行った。GATT/WTO協定は商品の特性に関連しない生産方法等に基づく貿易制限措置を認めていない。しかし、それらの措置は、森林の違法伐採を減らしたり、労働基準が緩い国に労働基準の強化を促したりする上で一定の効果があることを明らかにした。他方、それらの措置が偽装された保護貿易手段となる可能性があるため、その防止策について更なる検討が必要である。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,400,000	0	1,400,000
2007年度	1,000,000	0	1,000,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	300,000	3,700,000

研究分野：国際経済学

科研費の分科・細目：経済学・3604 応用経済学

キーワード：国際経済学

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 「貿易と環境」の問題において、環境規制が緩い国の企業が環境汚染の社会的費用を負担しないことで不当に国際競争力を獲得する「環境ダンピング」から環境を保護するためのやむを得ない貿易制限措置と、環境保護を表面上の理由とする「偽装的な保護主義」をどのように区別するかは主要な問題の1つ

である。

(2) 他方、「貿易と労働」の問題では、労働基準が緩い国の企業が劣悪な労働条件で労働者を働かせたり、適正な賃金を支払わなかったり等で不当に国際競争力を得るのを「社会的ダンピング」と呼ぶが、それに対して、労働者の権利保護や、社会的ダンピングによる

「不公正な競争」の防止策が求められる。しかし、「貿易と環境」と同様に、偽装的な保護主義に利用される懸念もある。

(3) これらの問題は、国際貿易における多角的貿易協定であるGATT（関税及び貿易に関する一般協定）と、1995年からGATTを引き継いだWTO（世界貿易機関）において「非貿易的関心事項」として位置づけられる。「貿易と環境」と「貿易と労働」の問題の両者に共通する点として、産品の特性に関連しない生産工程・生産方法（以下「産品非関連PPMs」と呼ぶ）の取扱いが挙げられる。従来のGATT/WTOの原則では、産品非関連PPMsに基づく表示ないし貿易制限措置は許容されてこなかった。しかし、近年その基準を見直す動きも見られるため、そのような貿易制限措置の効果を経済学的に分析することには意義があるということが本研究の動機となっている。

## 2. 研究の目的

本研究は、GATT/WTOという多角的貿易体制における「貿易と環境」ならびに「貿易と労働」の問題に関して、現在の主要な争点を明らかにし、その争点について経済学的分析を行った上で、政策的な知見を得ることを主な目的としている。その中でも特に、産品非関連PPMsに基づく表示ないし貿易制限措置が、いかなる条件の下でいかなる経済的效果をもつのかについて、主として理論的な観点から分析を行うことを目的とする。経済学的な分析を中心とするが、当該問題は国際法学の分野とも深い関わりをもっているため、国際法学における知見も援用しながら、「法と経済学」的なアプローチによる研究を行うことも目的としている。

## 3. 研究の方法

(1) 関連分野の文献・資料等を収集して、先

行研究における知見等をまとめるとともに、インターネットを活用して、これらのトピックに関する最新の情報を収集し、論点の整理を行った。また、WTO紛争解決手続でこれまで争われたケースや現在争われているケースについて分析し、争点の整理を行った。

(2) 国際法学の分野において、「貿易と環境」や「貿易と労働」の問題に詳しい専門家からヒアリングを行い、これらの問題に関する国際法学のアプローチによる見方について情報収集を行った。

(3) 本研究の中心である経済理論的分析に関しては、先行研究におけるモデルを参考にしながら、各イシューを分析するのに適した理論モデルを構築し、分析を行った。その上で、理論分析から得られる知見を明らかにし、政策的なインプリケーションを検討した。

## 4. 研究成果

(1) 産品非関連PPMsとの関係で貿易制限措置が難しいとされる、木材の違法伐採問題への対応に関して理論分析を行った。その結果、EUのFLEGT制度のような、木材の輸入国が主要輸出国との間で二国間協定を締結することで違法材を排除する取り組みは、協定締結国内で違法伐採を減らすだけでなく、他の輸出国でも違法伐採の減少が見込めるといった結果が得られた。

(2) 食品安全性問題や生物学的侵入問題等に対する政策に規律を与える、WTO協定のSPS協定に関して理論分析を行った。特に、WTOの紛争解決機関において紛争処理が行われる際に、当事国双方とWTO側に情報の非対称性が存在することに着目し、そのような状況においてSPS協定が果たす役割を経済学的な観点から

明らかにした。しかし、他方では、SPS措置が偽装された保護貿易手段として用いられることを防止する上で、現在のSPS協定には一定の限界が存在することも明らかになった。

(3) 「貿易と労働」の問題に関連して一部で積極的な議論が行われている「社会条項」や「社会条項関税」等について理論的な分析を行った。これらは、労働基準が緩い国に対して労働基準の強化を促すことを目的としている。発展途上国などはWTOがこうした政策を容認することに強く反対している。しかし、本研究における分析では、市場構造のあり方によっては、これらの政策の導入によって、当初労働基準が緩かった国の企業の利潤が増加するようなケースもありうるようになった。このような分析結果を踏まえると、この問題に関してはさらに詳細な分析を行っていく必要があると考えられる。

(4) 地球温暖化問題に対する様々な政策的措置に関して検討を行った上で、欧州連合が導入を検討している「国境税調整」及び「炭素関税」に関して経済学的な分析を行うとともに、WTO協定の整合性を検討した。その結果、これらの政策手段は経済学的には十分正当性をもたらすものの、偽装された保護貿易手段としても用いることが可能であるため、市場構造などにそくして更に分析を行う必要があることが明らかになった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 神事直人, 「地球温暖化対策と国境税調整及び炭素関税」, 岡山大学経済学会ディスカッション・ペーパー, II-67, 1-21, 2009年, 査読無.

- ② Taiji Furusawa and Naoto Jinji, “Tariff Revenue Competition in a Free Trade Area: The Case of Asymmetric Large Countries”, *Review of Development Economics*, 11(2), 300-312, 2007年, 査読有.
- ③ Naoto Jinji, “International Trade and Renewable Resources under Asymmetries of Resource Abundance and Resource Management”, *Environmental and Resource Economics*, 37(4), 621-642, 2007年, 査読有.

[学会発表] (計6件)

- ① 神事直人, “Illegal Extractions of Renewable Resources and Trade”, the 42nd Annual Meetings of the Canadian Economics Association, 2008年6月7日, バンクーバー(カナダ).
- ② 神事直人, “Illegal Extractions of Renewable Resources and Trade”, 日本経済学会2007年度秋季大会, 2007年9月24日, 東京.
- ③ 神事直人, “Illegal Extractions of Renewable Resources and Trade”, European Trade Study Group 2007 Meeting, 2007年9月15日, アテネ(ギリシャ).
- ④ 神事直人, “Illegal Extractions of Renewable Resources and International Trade with Costly Enforcement of Property Rights”, Asia Pacific Trade Seminars 2007 Meeting, 2007年7月7日, 上海(中国).
- ⑤ 神事直人, “An Economic Theory of the SPS Agreement”, 日本国際経済学会中部支部定例研究会/IEFS Japan Annual Meeting, 2007年1月27日, 名古屋.
- ⑥ 神事直人, “Strategic Environmental and Trade Policies with Corporate Environmentalism”, the 3rd World Congress of Environmental and Resource Economists, 2006年7月5日, 京都.

[図書] (計1件)

- ① 土場学(編著), ミネルヴァ書房, 個人と社会の相克, 2008年, 19-52頁.

[産業財産権]

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

神事 直人 (JINJI NAOTO)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准  
教授

研究者番号：60345452

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし